



首都大学東京
観光科学教室

学生企画・制作の情報誌
2019. vol.35

- ・ツーリズム海外出張
- ・ツーリズム運動会 レポート
- ・観光科学教室の学生に聞いてみた！
- ・ツーリズム人物図鑑 vol.2

令和元年 7月号

観光科学教室 大集結！

みんなで TOURISM ポーズ！



▲2019年度 ツーリズム運動会。全学年が揃ったこともあり、例年よりも広い会場である陸上競技場を借りて行われた。

ツーリズム海外体験

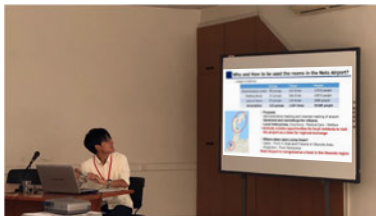
ギリシャで開催の学会へ潜入！

ギリシャ・クレタ島で開催された Changing cities 国際学会に参加してきた編集部在天目です。簡単にご報告させていただきます。

今回は、卒業論文の一部である、日本の地方空港ターミナルの非航空利用について、能登空港を事例にその取り組みについて発表しました。10分間という短い発表時間と慣れない英語でどこまで伝えられたかはわかりませんが、とても貴重な経験になりました。

せっかくギリシャまで行ったので観光も楽しみました！クレタ島ハニアは、海と町並みがとても美しく、物語の世界に入り込んだかのような穏やか時間が流れていました。また、意外にも学会では、発表のみならず、豪華なパーティーや遺跡とワイナリーを巡るツアー等のイベントも楽しんでいる人が多かったのが印象的でした。

アカデミックもエンターテイメントも楽しむ、普段とは違う旅行体験が出来ました。



▲発表に励む天目君



▲クレタ島ハニアの海と町並み

ツーリズム運動会 レポート

全学年の揃う初めての運動会！

5月26日、晴天の下、令和元年ツーリズム運動会が開催されました。観光科学教室内の親睦を深めることを目的に開催されてきた運動会ですが、今年初めて学部1年生から大学院生までが揃い、今までにない熱い戦いが繰り広げられました。そのような中、見事優勝したのは地域計画・マネジメント領域でした！

参加した学生の声を紹介します！



運動会運営係
小林 憲太さん (M1)

チーム内に初対面の人も多かったはずですが、競技が進むにつれて、先輩と後輩、先生と一緒に話すシーンが見られるようになり、チームワークが生まれる様子を肌で感じられました。運営係としては、競技を考えるのに苦労しましたが、同期のみんなの協力もあり、なるべく多学年で大人数でも参加できる新競技をつくることができました。



運動会運営係
青木 卓也さん (M1)

観光科学教室ならではの、先生・先輩・後輩の素敵なつながりを感じられましたし、1年生のフレッシュさはもちろんですが、先生方や大学院生の若々しい姿も見られましたね(笑) 係としては、運動会をどのように盛り上げるか悩みましたが、準備の段階から本番まで同期のみんなが協力してくれたので、運動会を成功させられたと思います。みんなには感謝です。



運動会 MVP
岩下 将士さん (B1)

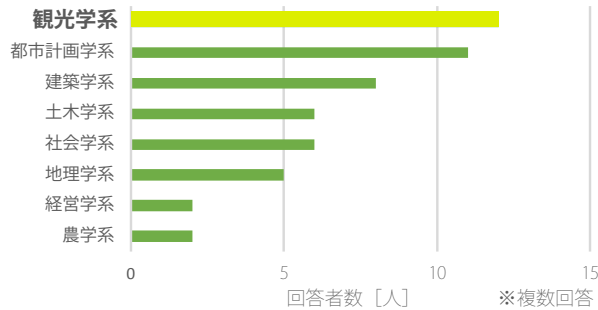
どーも、ツーリズム運動会 MVP の岩下将士です！ツーリズム運動会は先輩から先生方までも一緒に参加して競い合いますが、良いふれあいの場でもありました。変わっている種目も多くて、とても楽しい運動会でした！「そもそも、なんでお前が MVP なんだよ？」って？それは僕にもわかりません！そういう運動会なんだと思うことにします(笑)

観光科学教室の学生に聞いてみた！

夏休みといえば、オープンキャンパス！受験生にとってはどこの大学を受験するか真剣に考える季節でもあります。そこで、来年度以降に観光科学科に入ることを考えている受験生向けに、観光科学教室の先輩にあたる皆さんの率直な意見を発信しようとアンケートを実施しました！

(回答 35件 / ご協力ありがとうございました)

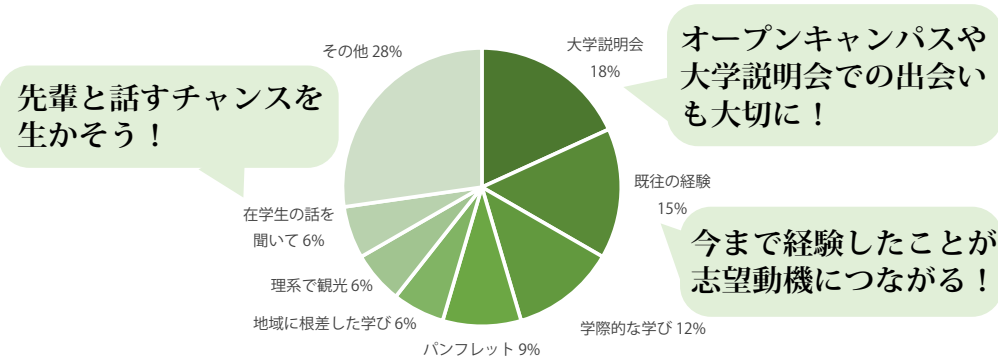
Q1. 受験期に他の大学のどのような分野を併願しましたか？



観光への関心が高い！
都市計画などの理系を志望する人もいれば、社会学などの文系を志望する人もいます。

【その他の回答】
国際学系、スポーツ科学系
情報学系、食料科学系

Q2. 観光科学科を目指すきっかけとなったエピソードは？



Q3. 観光科学科での抱負

- ・まちづくりや都市計画に興味があるので将来につながる学びをしたい
- ・観光者の心理を学びたい
- ・エコツーリズムについて学びたい
- ・フィールドワークで様々な場所の良さを見つけて、その魅力を発信できるようになりたい。
- ・観光に繋がる分野を広く学んで、自分がどこに興味があるのかを知っていききたい。

ツーリズム人物図鑑 vol.2

自然環境マネジメント領域 大澤 剛士 准教授



2005年環境省 富士箱根伊豆国立公園 アクティブレンジャー。2010年神戸大学大学院 人間発達環境学科修了(理学博士取得)。2010年(独)農業環境技術研究所 任期付研究員。2015年 国立研究開発法人 農業環境技術研究所 主任研究員。2016年 国立研究開発法人 食品・農業総合研究開発機構 農業環境変動研究センター 主任研究員。2018年より首都大学東京 都市環境学部 観光科学科 准教授 就任。

赴任2年目ながらも、観光科学域で存在感を示している大澤先生。この1年を振り返り、コースに抱いた率直な印象と先生の素顔に迫ります。

やったことが"眠り爆弾"として将来の観光に役立てば嬉しい

◇この1年を振り返っていかがでしょうか？

楽しい一年間でした。今振り返ると、新しい環境で何が起るかわからない中で過ごしてきたので、大変だった部分も多くあったと感じます。また、首都大学東京に赴任する前に所属していた研究所では、就職氷河期世代だったということで、周囲に同年代、年下がない環境でした。大学には若い人も多く、自由な空気で、その部分も楽しかったです。

◇観光科学教室に対してどのような印象を抱いていますか？

観光科学という分野は新しく、型がないので、自由に新しいことをやるという空気があると感じます。農学や理学系の分野は、歴史が長い分決まった型があったので、今の環境は新鮮です。

◇首都大学東京に着任される前はどのような研究をされていたのでしょうか？

着任前は農林水産省系の国立研究開発法人に勤めていました。ここでは、日本の農業をどのようによくしていくかということを中心に研究していました。農林水産省系の研究所ということもあり、大臣が言ったことや、法律で決まったことに関連する研究をすることが多かったと思います。



▲フィールドワークの経験も豊富な大澤先生

◇休日はどのようにお過ごしですか？

小さい子どもが2人いるので、一緒に遊んでいることが多いです。緑が多い場所に住んでいるので、自然と触れ合うことが多いです。

◇今後、観光科学教室でやっていきたいことなどありますか？

「観光だからこうしなければいけない」ということにとらわれず、学生の意見も聞きながら、自分が考えていることを進めていきたいと考えています。「これが観光？」と思われる研究だとしても、それが"眠り爆弾"として5年後、10年後、あるいはもっと先の未来の観光分野で少しでも役立てばという思いを胸に、新しいことにも挑戦していきたいです。

◇学生へのメッセージをお願いします。

私自身も学生時代から研究者になろうと思っていたわけではなく、博士前期課程修了後、一度民間企業に入った経験もあります。その後、チャレンジをして研究者になりました。今は「良い大学を出て、良い会社に就職するのが理想だ」という時代ではなくなってきていると感じます。自分の将来を決めることは難しいと思いますが、昔の考え方や周りにとらわれる必要はなく、それらは参考にする程度で、自分の思うがままに進んでほしいと思います。



首都大学東京観光科学教室
学生企画・制作の情報誌
ツーリズムマガジン
←バックナンバー (Vol.1-Vol.34) はこちらから！
観光科学教室のその他の情報もご覧ください。

編集後記

本号は主に大学説明会での配布を想定しているため、受験生のみなさんに一言。大学は皆さんの人生に必要な羅針盤を得られるところです。大学や学部を選ぶにあたって実際に足を運んで見比べることは重要です。その一歩を踏み出した皆さんが、観光科学教室の門をたたいてくれることを期待しています。

編集長 : 菅井 颯
編集委員 : 大川 恭平、田村 優衣、天目 岳志
発行 : 首都大学東京 観光科学教室